

PRIMARY

変額個人年金保険（災害死亡10％型）〔プライマリー〕

特別勘定運用レポート （組入投資信託の運用状況）

特別勘定の名称	投資信託の名称	投資信託の運用会社	ページ
日本株式インデックス1型	日本株式インデックスファンドVA	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	1
日本株式アクティブ1型	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA1	フィデリティ投信株式会社	2
日本株式アクティブ2型	ダイワ・バリュー株・オープンVA2	大和アセットマネジメント株式会社	3
外国株式インデックス1型	外国株式インデックスファンドVA	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	4
外国株式アクティブ1型	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グ ロース・オポチュニティーズ-1	アライアンス・バーンスタイン株式会社	5
外国債券インデックス1型	外国債券インデックスファンドVA	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	6
外国債券アクティブ1型	ベアリング外国債券ファンドVA2	ベアリングス・ジャパン株式会社	7
外国債券アクティブ3型	グローバル・ソブリン・オープンVA2	三菱UFJアセットマネジメント株式会社	8
バランス1型	バランスVA50	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	9
短期資金1型	フィデリティ・マネー・プールVA	フィデリティ投信株式会社	10

特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって

当資料をご覧ください際にご留意いただきたい事項

- ・当資料は既に当商品にご加入されたご契約者に対し、三井住友海上プライマリー生命の PRIMARY〔変額個人年金保険（災害死亡 10%型）〕の特別勘定および特別勘定が主たる投資対象とする投資信託の運用状況を開示するためのものです。なお、商品の詳細につきましては、商品パンフレット、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をご覧ください。
- ・当資料に記載されている運用実績等に関する情報は過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、[組入投資信託の運用状況]に記載されているコメント等は当資料作成時点の見解に基づくものであり、予告なく変更されることがあります。
- ・[組入投資信託の運用状況]は、運用会社が作成する運用報告を三井住友海上プライマリー生命が参考情報としてそのまま提供するものであり、内容に関しては、三井住友海上プライマリー生命の責めによるものを除き、三井住友海上プライマリー生命は一切の責任を負いません。

この保険商品についてご確認ください事項

■市場リスクについて

この保険は、払込みいただいた保険料を投資信託等を投資対象としている特別勘定で運用し、その運用実績に基づいて将来の死亡保険金額、解約払戻金額、および年金額等が変動（増減）するしくみの生命保険商品です。特別勘定の資産は、主に国内外の株式・債券等に投資する投資信託を通じて運用されるため、株価や債券価格の下落、為替の変動等により、解約払戻金等のお受取りになる合計額が払込まれた保険料を下回る可能性があり、損失が生じるおそれがあります。これらの特別勘定の運用に伴うリスクはすべてご契約者に帰属します。

■ご負担いただく費用について

この保険では、保険関係費および資産運用関係費等をご負担いただきます。また、一定期間内にご契約を解約・一部解約する場合には、所定の解約控除がかかります。詳しくは次ページ「諸費用について」をご参照ください。

■その他

- ・変額個人年金保険は特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、ご契約者が投資信託を直接保有するものではありません。
- ・特別勘定のユニットプライスの値動きは、特別勘定が投資対象とする投資信託の値動きと必ずしも一致しません。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有することがあることや、ユニットプライスの計算に当たり保険関係費等の費用を控除すること等によるものです。

諸費用について

この保険の費用の合計は、以下の費用の合計額となります。

積立期間中にご負担いただく費用

1. すべてのご契約者にご負担いただく費用

下記の費用を控除した上で、ユニットプライスは計算されます。

項 目	目 的	費 用	時 期
保険関係費	当保険契約の締結および維持などに必要な費用ならびに死亡保険金・災害死亡保険金等を支払うための費用	積立金額に対して年率 1.95%	積立金額に対して左記の年率の 1/365 を乗じた金額を毎日控除します。
資産運用関係費	投資信託の信託報酬など、特別勘定の運用にかかわる費用	特別勘定ごとに異なります。詳しくは下記をご覧ください。	各特別勘定の資産残高に対して所定の年率の 1/365 を乗じた金額を毎日控除します。

特別勘定の名称	資産運用関係費 (消費税込 年率)	特別勘定の名称	資産運用関係費 (消費税込 年率)	特別勘定の名称	資産運用関係費 (消費税込 年率)
日本株式インデックス1型	0.495%程度*1	外国株式アクティブ1型	0.902%程度	バランス1型*3	0.539%程度*1
日本株式アクティブ1型	1.133%程度	外国債券インデックス1型	0.583%程度	短期資金1型	0.00935%~ 0.55%程度*4
日本株式アクティブ2型	1.309%程度	外国債券アクティブ1型	0.748%程度		
外国株式インデックス1型	0.66%程度	外国債券アクティブ3型*2	0.935%程度		

- * 1 投資信託とそのマザーファンドにおいて有価証券の貸付の指図を行った場合は、投資信託の品賃料およびマザーファンドの品賃料のうち投資信託の信託財産に属するとみなした額に50%未満の率を乗じて得た額を信託報酬として、各特別勘定の資産残高から控除します。
・品賃料は投資信託の収益として計上され、その一部を信託報酬として受取るものです。
- * 2 2003年7月1日より追加設定されました。 * 3 2004年7月1日より追加設定されました。
- * 4 前月の最終営業日を除く最終5営業日間における無担保コール翌日物レートの平均値に応じた率を用いて各月ごとに決定するため、上限と下限のみを記載しております。



ご注意

- ・資産運用関係費は信託報酬を記載しています。この他、信託財産留保額、有価証券の売買手数料、運用関連の税金、監査費用等がかかる場合がありますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。これらの費用は特別勘定がその保有資産から負担するため、特別勘定のユニットプライスに反映されることとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。
- ・資産運用関係費は、運用手法の変更、運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

2. 下記のお取扱いの場合に別途ご負担いただく費用

特別勘定のユニットプライスを計算した後に特定の契約者にご負担いただきます。

項 目	費 用		時 期
契約維持費	積立金が200万円未満のとき	毎月400円	月ごとの契約応当日に積立金から控除します。
積立金移転手数料	1保険年度に15回目までは無料	1保険年度16回目以後の移転について2,500円/回	移転時に積立金から控除します。
貸付利息	契約者貸付を受けるとき	貸付金額に対して年率 1.95%	年ごとの契約応当日に積立金から控除します。
解約控除	解約するとき	経過年数に応じて、 払込保険料総額に対して1~7%	解約時・一部解約時に積立金から控除します。
	一部解約するとき	経過年数に応じて、 一部解約請求金額に対して1~7%	

- ※ 一部解約請求金額が払込保険料総額を上回る場合には、解約控除対象額は払込保険料総額を上限とします。一部解約の際に解約控除対象額として扱われた金額については、以後の解約控除対象額の計算の対象とする払込保険料総額から控除して取扱います。
- ※ 契約日（増額日）から10年未満で一般勘定で運用する定額年金へ変更した場合には、契約日（増額日）からの経過年数に応じた解約控除がかかります。

＜解約控除率＞

契約日（増額日）からの経過年数	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 4年未満	4年以上 5年未満	5年以上 6年未満	6年以上 7年未満	7年以上 8年未満	8年以上 9年未満	9年以上 10年未満	10年以上
解約控除対象額に対する解約控除率	7%	7%	6%	6%	5%	5%	4%	3%	2%	1%	0%

年金支払期間中にご負担いただく費用

下記の年金管理費を年金支払開始日以後ご負担いただきます。（遺族年金支払特約による年金も含まれます。）

項 目	費 用	時 期
年金管理費	年金額に対して 1%	年金支払開始日以後、年金支払日に責任準備金から控除します。

※ 上記費用は上限です。なお、年金支払開始日時時点の費用を年金支払期間を通じて適用します。

ファンド名：日本株式インデックスファンドVA

作成基準日： 2026年8月31日

ファンドの特色

● 運用方針

- わが国の金融商品取引所等に上場している株式に分散投資を行い、「TOPIX」（東証株価指数）（配当込み）と連動する投資成果を目標として運用を行います。
- 株式の実質組入比率は、原則として高位（90%以上）を保ちます。ただし、資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記のような運用が行われない場合もあります。
- ファミリーファンド方式で運用します。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（日本株式インデックスファンドVA）とし、その資金をマザーファンド（日本株式マザーファンド）に投資して、実質的な運用はマザーファンドで行う仕組みです。

● 投資対象等

わが国の金融商品取引所に上場している株式に投資する
「日本株式マザーファンド」

● ベンチマーク

「TOPIX」（東証株価指数）（配当込み）

(注)TOPIX（東証株価指数）とは、株式会社JPX総研が算出、公表する指数で、日本の株式市場を広く網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。

TOPIX（東証株価指数）（配当込み）（以下、「配当込みTOPIX」という。）の指数値及び配当込みTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など配当込みTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及び配当込みTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、配当込みTOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

信託財産（マザーファンド）の構成

● 資産構成比

株 式 比 率	100.0%
うち現物株式	99.3%
うち先物株式	0.6%
コール・その他	0.7%

※対純資産総額比

● 組入銘柄数

1,626銘柄

組入上位10業種（マザーファンド）

	業 種※1	比 率※2	TOPIX構成比
1	電気機器	20.63%	20.62%
2	銀行業	12.60%	12.60%
3	卸売業	7.40%	7.41%
4	情報・通信業	6.31%	6.32%
5	機械	5.73%	5.73%
6	輸送用機器	5.10%	5.10%
7	化学	4.50%	4.49%
8	サービス業	4.39%	4.40%
9	小売業	3.77%	3.77%
10	保険業	3.45%	3.45%

※1 東証33業種ベース ※2 対現物株式評価額比

設定・運用は、三井住友トラスト・アセットマネジメント (<https://www.smtam.jp/>)

ファンドの状況

● 基準価額等

		前月末比
基準価額	65,264円	+2,393円
解約価額	65,264円	+2,393円
純資産総額	2,204百万円	+73百万円

(注)純資産総額は百万円未満四捨五入

● 資産構成

日本株式マザーファンドに100%投資

基準価額の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	10年	設定来
ファンド	3.81%	5.03%	6.49%	37.56%	88.25%	132.97%	274.89%	557.60%
ベンチマーク	3.85%	5.17%	6.77%	38.28%	91.24%	139.34%	295.25%	637.03%
超過収益率	-0.04%	-0.14%	-0.28%	-0.72%	-2.98%	-6.37%	-20.36%	-79.42%

※ファンドの騰落率は、分配金（課税前）を分配時に再投資したものとみなして修正した基準価額を基に算出しています。

基準価額の推移



※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。 設定来分配金合計 110円 (10,000口あたり、課税前)

組入上位20銘柄（マザーファンド）

	銘 柄	比率※		銘 柄	比率※
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	3.92%	11	三菱商事	1.60%
2	トヨタ自動車	2.66%	12	キーエンス	1.44%
3	三井住友フィナンシャルグループ	2.57%	13	東京海上ホールディングス	1.34%
4	日立製作所	2.37%	14	三井物産	1.29%
5	ソニーグループ	2.30%	15	伊藤忠商事	1.29%
6	リクルートホールディングス	2.24%	16	三菱重工業	1.26%
7	東京エレクトロン	2.03%	17	村田製作所	1.18%
8	みずほフィナンシャルグループ	2.03%	18	三菱電機	1.06%
9	アドバンテスト	1.74%	19	任天堂	0.97%
10	ソフトバンクグループ	1.72%	20	パナソニック ホールディングス	0.92%

※対純資産総額比

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

- ① 主として日本株を投資対象とします。
 ② 個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行ないます。

設定来の運用実績

(2026年8月31日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。※基準価額は運用管理費用控除後のものです。※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

コメント

(2026年8月31日現在)

当月の東京株式市場は、世界的な長期金利の上昇や中東情勢の先行き不透明感が重石となりながらも、米利上げ観測の後退や好決算銘柄への物色を支えとして、前月末よりも高い水準で月を終えました。日米協調為替介入による円高進行が警戒されるなかで始まりましたが、米国とイランのホルムズ海峡開放を巡る合意への期待や米ハイテク株の上昇を支えに反発しました。労働市場の減速が示された米雇用統計を受けて米利上げ観測が後退したことや、好決算銘柄への物色が相場を押し上げ、TOPIXは月半ばに史上最高値を更新しました。その後は、米国とイランの交渉停滞で中東情勢に対する先行き不透明感が高まったことや、インフレ懸念を背景とした日米欧の長期金利上昇が嫌気されて急落し、株価は上げ幅を縮めました。月末にかけては、金利上昇が警戒されるなか、株価の割高感が意識された人工知能(AI)・半導体関連株が軟調となり、日経平均株価はほぼ横ばいに推移した一方で、好業績銘柄への物色を支えにTOPIXは堅調な動きとなりました。月間の騰落率は、TOPIX(配当込)が+3.85%、日経平均株価は+3.03%でした。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

ポートフォリオの状況 (マザーファンド・ベース)

(2026年7月31日現在)

資産別組入状況

株式	99.0%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	-
現金・その他	1.0%

市場別組入状況

東証プライム	98.1%
東証スタンダード	0.7%
東証グロース	0.1%
その他市場	-

組入上位5業種

電気機器	22.2%
銀行業	15.8%
卸売業	7.9%
機械	7.1%
建設業	5.0%

(対純資産総額比率)

- * 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。
 * 業種は東証33業種に準じて表示しています。
 * 未払金等の発生により「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

商品概要

形態	追加型投信／国内／株式
投資対象	わが国の株式等
設定日	2001年10月29日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン

(2026年8月31日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	3.11%	1.90%	2.62%	33.83%	67.98%	526.88%
ベンチマーク	3.85%	5.17%	6.77%	38.28%	91.24%	508.58%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

※ベンチマーク：TOPIX(配当込)

* TOPIX(配当込)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されており、配当を考慮したものです。

* 東証株価指数(TOPIX) (以下「TOPIX」という。)の指数値及びTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

過去5期分の収益分配金(1万口当たり／税込)

第20期(2021.11.30)	0円
第21期(2022.11.30)	0円
第22期(2023.11.30)	0円
第23期(2024.12.02)	0円
第24期(2025.12.01)	0円

純資産総額

16.0 億円

(2026年8月31日現在)

組入上位10銘柄 (マザーファンド・ベース)

(2026年7月31日現在)

	銘柄	業種	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	5.2%
2	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	4.3%
3	リクルートホールディングス	サービス業	3.2%
4	村田製作所	電気機器	2.8%
5	横浜フィナンシャルグループ	銀行業	2.8%
6	三菱電機	電気機器	2.7%
7	日立製作所	電気機器	2.7%
8	キーエンス	電気機器	2.5%
9	三井物産	卸売業	2.4%
10	トヨタ自動車	輸送用機器	2.3%

(組入銘柄数：172)

上位10銘柄合計 30.8%

(対純資産総額比率)

当資料は、情報提供を目的としたものであり、ファンドの推奨(有価証券の勧誘)を目的としたものではありません。本資料に記載の内容は将来の運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、厳密な意味での正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。上記情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。



Fidelity フィデリティ投信株式会社
INTERNATIONAL

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

基準日：2026年8月31日

回次コード：2024

適格機関投資家専用・ダイワ・バリュー株・オープンVA2(愛称:底力VA2)

Monthly Fund Report

特色		概要	
わが国の上場株式の中から、取得時にPER、PBR等の指標または株価水準からみて割安と判断され、今後株価の上昇が期待される銘柄に投資します。当ファンドは、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)をベンチマークとして長期的に同指数を上回る投資成果をめざします。ファミリーファンド方式により運用を行います。		当初設定日	2002年9月24日
		償還日	無期限
		決算日	3月9日
		受託銀行	三井住友信託銀行
投資制限	株式:制限なし、外貨建資産:不可	運用管理費用	純資産総額に対して年率1.309%

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

＜基準価額・純資産の推移＞

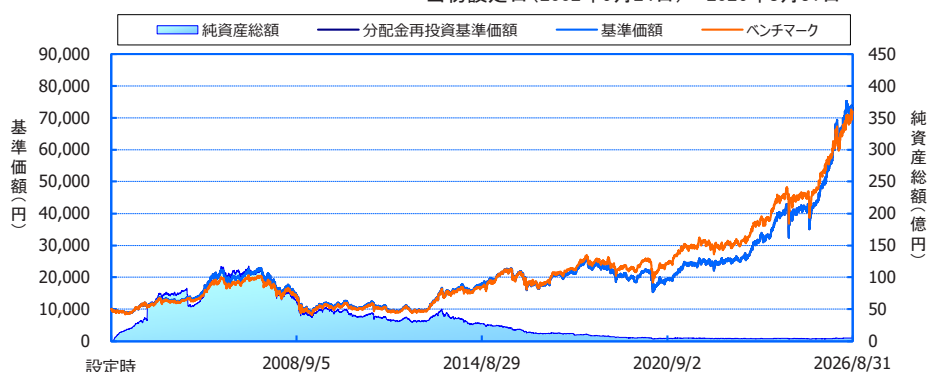
当初設定日(2002年9月24日)～2026年8月31日

2026年8月31日時点

基準価額	73,092円
純資産総額	4.66億円

期間別騰落率

期間	ファンド	ベンチマーク
1カ月間	+3.0%	+3.9%
3カ月間	+3.4%	+5.2%
6カ月間	+5.4%	+6.8%
1年間	+50.9%	+38.3%
3年間	+126.6%	+91.2%
5年間	+204.4%	+139.3%
年初来	+29.5%	+23.4%
設定来	+630.9%	+619.0%



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しております。

※当ファンドは東証株価指数(TOPIX)(配当込み)をベンチマークとしておりますが、同指数を上回る運用成果を保証するものではありません。

※グラフ上のベンチマークは、グラフの起点時の基準価額に基づき指数化しています。

＜分配の推移＞

(1万口当たり、税引前)

決算期(年・月)	分配金
第1～18期	合計: 0円
第19期 (21.03)	0円
第20期 (22.03)	0円
第21期 (23.03)	0円
第22期 (24.03)	0円
第23期 (25.03)	0円
第24期 (26.03)	0円
分配金合計額	設定来: 0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

※先物の建玉がある場合は、資産別構成の比率合計欄を表示していません。

＜主要な資産の状況＞

※比率は、純資産総額に対するものです。

資産別構成			国内株式 業種別構成		合計97.0%
資産	銘柄数	比率	東証33業種名	比率	
国内株式	122	97.0%	銀行業	16.9%	
国内株式先物	1	0.8%	電気機器	13.1%	
不動産投資信託等	---	---	機械	10.5%	
コール・ローン、その他	---	3.0%	情報・通信業	6.8%	
合計	123	---	輸送用機器	6.5%	
国内株式 市場・上場別構成			卸売業	5.7%	
東証プライム市場	---	96.6%	化学	5.0%	
東証スタンダード市場	---	0.4%	保険業	4.9%	
東証グロース市場	---	---	食料品	3.5%	
地方市場・その他	---	---	その他	24.0%	
組入上位10銘柄			合計31.6%		
			銘柄名	東証33業種名	比率
			三井住友フィナンシャルG	銀行業	5.1%
			三菱UFJフィナンシャルG	銀行業	4.9%
			小松製作所	機械	3.7%
			トヨタ自動車	輸送用機器	3.5%
			キオクシアホールディングス	電気機器	3.0%
			東京海上HD	保険業	2.7%
			住友電工	非鉄金属	2.3%
			第一ライフグループ	保険業	2.2%
			三井住友トラストグループ	銀行業	2.1%
			三井物産	卸売業	2.1%

ファンドマネージャーのコメント

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

【株式市況】8月の国内株式市場は上昇しました。需給改善や米ハイパースクエアーの好調な決算を受け、過剰投資懸念の後退を背景に、AI・半導体関連株が買い戻され、月半ばにかけて相場をけん引しました。その後は、国内長期金利の上昇がグロース株を中心に株式バリュエーションの重荷となり、相場が急落する場面も見られました。もっとも、金利上昇が一服すると、幅広い業種で4-6月期決算が良好だったこともあり、月末にかけて堅調に推移しました。

【運用経過】ポートフォリオの構築に際しては、中東情勢を受けた外部環境のリスクの変化や日米の政策動向を勘案しつつ、今後の業績回復や好調な業績の持続性などに注目して銘柄を入れ替えました。また、自己株式の取得や配当金の増額などの株主還元を通じて、資本効率の改善が期待される銘柄に注目しました。具体的には、価格競争が一段落し、安定した業績を背景に株主還元の拡充が期待される通信関連株や、低迷した業績の底打ちと来期にかけての回復に注目した食品関連株、事業構造改革の本格的な着手など経営の変化に注目した電機関連株などのウエートを引き上げました。一方で、収益性の向上が顕著な建設関連株や、原材料の上昇により業績の不透明感が再び高まった航空関連株などのウエートを引き下げました。このような売買や株価変動により、業種構成では情報・通信業、銀行業、化学などの比率が上昇し、建設業、空運業、保険業などの比率が低下しました。

■当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。

大和アセットマネジメント
Daiwa Asset Management

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

外国株式インデックスファンドVA

PRIMARY

ファンド名：外国株式インデックスファンドVA

作成基準日：2026年8月31日

ファンドの特色

●運用方針

- ・日本を除く世界の主要国に分散投資を行い、MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）※と連動する投資成果を目標として運用を行います。
- ・株式の実質投資割合は、原則として高位（90%以上）とします。
- ・外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、エクスポージャーの調整等を目的として為替予約取引等を活用する場合があります。
- ・ただし、資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記のような運用が行われない場合もあります。
- ・ファミリーファンド方式で運用します。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（外国株式インデックスファンドVA）とし、その資金をマザーファンド（外国株式マザーファンド）に投資して、実質的な運用はマザーファンドで行う仕組みです。

●投資対象等

日本を除く世界の主要国の株式に投資する
「外国株式マザーファンド」

●ベンチマーク

MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）

（※）MSCIコクサイ・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した日本を除く世界の主要国の株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。「円換算ベース」は、米ドルベース指数をもとに、当社が独自に円換算した指数です。
MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.はMSCIコクサイ・インデックスの内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

信託財産（マザーファンド）の構成

●資産構成比

株 式 比 率	
うち現物株式	98.1%
うち先物株式	1.9%
コール・その他	1.9%

※対純資産総額比

●組入銘柄数

1,113銘柄

組入上位10カ国（マザーファンド）

	国	比 率※	ベンチマーク構成比
1	米国	76.89%	76.56%
2	英国	3.71%	3.75%
3	カナダ	3.67%	3.67%
4	フランス	2.46%	2.50%
5	スイス	2.41%	2.39%
6	ドイツ	2.35%	2.34%
7	オーストラリア	1.73%	1.73%
8	オランダ	1.43%	1.47%
9	スペイン	1.04%	1.05%
10	イタリア	0.86%	0.87%

※対現物株式評価額比

注）資料中、株式には投資信託等を含めております。

設定・運用は、三井住友トラスト・アセットマネジメント (<https://www.smtam.jp/>)

ファンドの状況

●基準価額等

		前月末比
基準価額	128,982円	+3,564円
解約価額	128,982円	+3,564円
純資産総額	2,008百万円	+48百万円

（注）純資産総額は百万円未満四捨五入

●資産構成

外国株式マザーファンドに100%投資

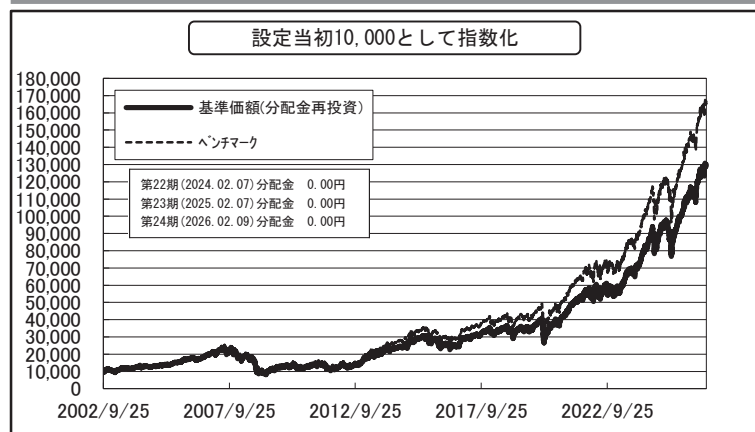
基準価額の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	10年	設定来
ファンド	2.84%	3.21%	12.93%	29.71%	87.17%	143.20%	416.73%	1200.94%
ベンチマーク	3.00%	3.50%	13.54%	30.97%	92.48%	154.83%	468.48%	1566.27%
超過収益率	-0.16%	-0.29%	-0.62%	-1.26%	-5.31%	-11.64%	-51.75%	-365.33%

（注1）ベンチマークの騰落率は、ファンドの評価と基準を同一にするため、基準価額を算出する前営業日のMSCIコクサイ指数を基に当社で計算したものです。

（注2）ファンドの基準価額を算出する際の為替レートは資産運用業協会所定のものを使用しています。

基準価額の推移



※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、設定来分配金合計 150 円
あるいは分配金が支払われない場合があります。（10,000口あたり、課税前）

組入上位10銘柄（マザーファンド）

	銘柄	国	比 率※
1	NVIDIA CORP	米国	5.68%
2	APPLE INC	米国	5.31%
3	MICROSOFT CORP	米国	4.10%
4	AMAZON.COM	米国	2.92%
5	ALPHABET INC-CL A	米国	2.28%
6	BROADCOM INC	米国	1.88%
7	ALPHABET INC-CL C	米国	1.79%
8	META PLATFORMS INC-CLASS A	米国	1.44%
9	MICRON TECHNOLOGY	米国	1.19%
10	TESLA INC	米国	1.11%

※対純資産総額比

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

運用会社：アライアンス・バーンスタイン株式会社

作成基準日：2026年8月31日

投資対象

アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンドへの投資を通じて、世界各国(日本を含む)の株式市場に分散投資します。

基準価額の推移と運用実績

基準価額の推移

(1万口当たり)



基準価額／純資産総額

基準価額	58,385円	純資産総額	1億99百万円
------	---------	-------	---------

基準価額騰落率

	1ヵ月間	3ヵ月間	6ヵ月間	1年間	3年間	当初設定来*
ファンド	2.0%	-0.2%	7.1%	10.8%	35.9%	483.9%
参考指標	3.1%	3.6%	13.0%	30.9%	90.0%	917.7%
円／米ドルレート	-0.4%	0.4%	2.7%	8.9%	9.5%	29.8%

*当初設定日：2001年12月3日

※参考指標はMSCIワールド・インデックス(配当金込み、円ベース)です。
 ※基準価額およびその騰落率は、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資家の皆様の実際の投資成果を示すものではありません。また、データは過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

マザーファンドのポートフォリオの状況

※組入比率は、全て対純資産総額の比率です。

セクター別配分

セクター	比率	セクター	比率
情報技術	31.7%	素材	2.1%
資本財・サービス	16.0%	一般消費財・サービス	1.9%
金融	15.6%	エネルギー	1.2%
ヘルスケア	13.4%	現金等	3.6%
コミュニケーション・サービス	6.9%		
生活必需品	3.2%		
公益事業	2.2%		
不動産	2.2%		
合計			100.0%

国別配分

国	比率	国	比率
アメリカ	55.4%	フランス	2.3%
日本	6.7%	スペイン	2.2%
スイス	4.5%	その他の国	9.5%
台湾	3.8%	現金等	3.6%
イタリア	3.7%		
イギリス	3.1%		
オランダ	2.6%		
ドイツ	2.6%		
合計			100.0%

資産配分

株式等	96.4%
(内訳) 国内株式	6.7%
外国株式	89.7%
現金その他	3.6%

組入上位10銘柄

(銘柄数：57銘柄)

銘柄名	セクター	国	比率
1 エヌビディア	情報技術	アメリカ	6.6%
2 アルファベット	コミュニケーション・サービス	アメリカ	5.2%
3 アップル	情報技術	アメリカ	4.0%
4 台湾セミコンダクター	情報技術	台湾	3.8%
5 VISA	金融	アメリカ	3.1%
6 メルク	ヘルスケア	アメリカ	2.6%
7 ブロードコム	情報技術	アメリカ	2.4%
8 ジョンソン・エンド・ジョンソン	ヘルスケア	アメリカ	2.3%
9 ロックウェル・オートメーション	資本財・サービス	アメリカ	2.3%
10 バンク・オブ・ニューヨーク・メロン	金融	アメリカ	2.3%
(組入上位10銘柄計)			34.6%

※小数点第2位以下を四捨五入しています。

※セクター別配分は、MSCI/S&PのGlobal Industry Classification Standard(GICS)の分類で区分しています。

※国別配分は、発行体の国籍や事業基盤等を考慮して区分しています。

※組入上位10銘柄は、当ファンドの運用内容の説明のためのものであり、アライアンス・バーンスタイン株式会社が推奨または取得のお申込みの勧誘を行うものではありません。

市況

2026年8月の世界の株式市場は上昇しました(米ドルベース)。

米国株式市場は前月末比で上昇しました。月前半は、中東情勢を巡る過度な懸念が後退したことや企業決算がおおむね良好な内容となったことを背景に、S&P500株価指数が過去最高値を更新するなど堅調に推移しました。特に主要企業を中心に収益拡大が確認されたことが相場を支えました。一方、月後半は原油高によるインフレ懸念や米国の財政赤字拡大への警戒感を背景に長期金利が上昇し、株式の相対的な割高感が意識されました。また、米連邦準備理事会(FRB)による利上げ観測が高まったことも投資家心理の重しとなり、上値の重い展開となりました。欧州株式市場は前月末比で上昇しました。米国株式市場の上昇や企業活動の改善を示す経済指標が好感され、堅調に推移しました。特に、製造業購買担当者景気指数(PMI)が約4年ぶりの高い伸びを示したことが投資家心理の支えとなりました。一方、ユーロ圏のインフレ率上昇を受けて欧州中央銀行(ECB)による追加利上げ観測が高まったことから、相場は上昇基調を維持しながらも金利動向を意識した上値の重い展開となりました。日本株式市場は前月末比で上昇しました。月前半は、米国株式市場の上昇を受けて投資家心理が改善したことに加え、企業業績への期待が相場を支え、堅調に推移しました。一方、国内のインフレ率上昇を背景に日銀による追加利上げ観測が強まり、金融政策の動向が意識されました。また、世界的な金利上昇圧力や中東情勢への警戒感が相場の重しとなり月半ばには調整する場面もみられましたが、その後は持ち直しました。

為替市場では、米ドル円は円高米ドル安となり、2026年8月31日の基準価額の算定に使用するレートは1米ドル＝160円02銭(2026年7月31日：160円72銭)となりました。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

外国債券インデックスファンドVA

PRIMARY

ファンド名：外国債券インデックスファンドVA

作成基準日：2026年8月31日

ファンドの特色

- 運用方針
 - ・ FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）※に採用されている国の国債等に分散投資を行い、同指数と連動する投資成果を目標として運用を行います。
 - ・ 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。ただし、エクスポージャーの調整等を目的として為替予約取引等を活用する場合があります。
 - ・ ただし、資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記のような運用が行われない場合もあります。
 - ・ ファミリーファンド方式で運用します。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（外国債券インデックスファンドVA）とし、その資金をマザーファンド（外国債券マザーファンド）に投資して、実質的な運用はマザーファンドで行う仕組みです。
- 投資対象等
 - 日本を除く世界の主要国の公社債に投資する「外国債券マザーファンド」
- ベンチマーク
 - FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

（※）FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性及び完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏又は遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

信託財産（マザーファンド）の構成

● 資産構成比

外国債券	99.3%
うち現物	98.9%
うち先物	0.4%
コール・その他	1.1%

※対純資産総額比

- 組入銘柄数 971銘柄
- 修正デュレーション ファンド 6.06
ベンチマーク 6.11

組入上位10カ国（マザーファンド）

	発行国	比率※	ベンチマーク構成比
1	米国	44.48%	44.10%
2	中国	12.94%	13.01%
3	フランス	7.02%	7.07%
4	イタリア	6.42%	6.27%
5	英国	5.76%	5.75%
6	ドイツ	5.46%	5.56%
7	スペイン	4.06%	4.06%
8	カナダ	2.13%	2.11%
9	ベルギー	1.46%	1.44%
10	オーストラリア	1.31%	1.36%

※組入債券を100としたときの構成比です。

設定・運用は、三井住友トラスト・アセットマネジメント (<https://www.smtam.jp/>)

ファンドの状況

● 基準価額等

		前月末比
基準価額	24,402円	-21円
解約価額	24,402円	-21円
純資産総額	742百万円	+2百万円

（注）純資産総額は百万円未満四捨五入

● 資産構成

外国債券マザーファンドに100%投資

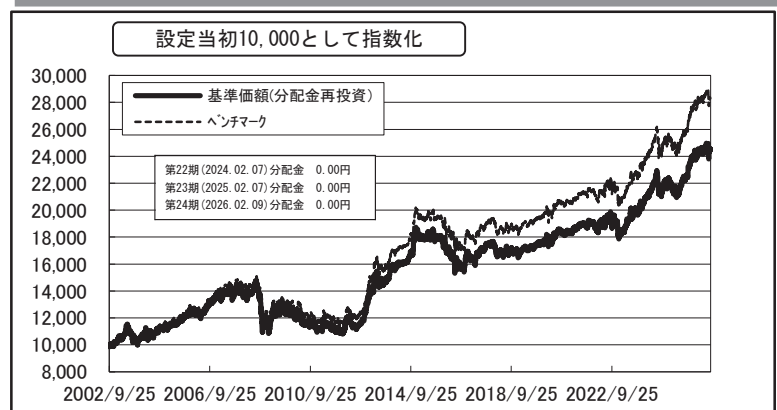
基準価額の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	10年	設定来
ファンド	-0.09%	-0.24%	0.48%	10.31%	21.58%	29.39%	52.89%	145.34%
ベンチマーク	0.88%	0.02%	0.58%	10.99%	24.13%	33.38%	63.06%	184.32%
超過収益率	-0.97%	-0.26%	-0.10%	-0.68%	-2.55%	-3.98%	-10.17%	-38.98%

（注1）ベンチマークの騰落率は、ファンドの評価と基準を同一にするため、基準価額を算出する前営業日のFTSE世界国債インデックスにもとづき当社にて計算したものです。

（注2）ファンドの基準価額を算出する際の為替レートは資産運用業協会所定のものを使用していますが、ベンチマークの為替レートは WMR Closing Spot Rates (対USDドル)を使用しています。

基準価額の推移



※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、設定来分配金合計 80 円
あるいは分配金が支払われない場合があります。（10,000口あたり、課税前）

組入上位10銘柄（マザーファンド）

	銘柄	クーポン	償還日	比率※
1	米国国債	3.375 %	2027/9/15	0.96%
2	米国国債	2.750 %	2032/8/15	0.80%
3	米国国債	3.750 %	2030/6/30	0.66%
4	米国国債	0.625 %	2030/8/15	0.64%
5	米国国債	4.250 %	2035/5/15	0.59%
6	中国国債	1.830 %	2035/8/25	0.58%
7	米国国債	0.500 %	2027/10/31	0.53%
8	米国国債	0.625 %	2030/5/15	0.53%
9	米国国債	4.500 %	2033/11/15	0.51%
10	米国国債	2.875 %	2032/5/15	0.51%

※組入債券を100としたときの構成比です。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

ベアリング 外国債券 ファンド VA2（適格機関投資家専用）

BARINGS

設定：ベアリングス・ジャパン株式会社

作成基準日：2026年08月31日

ファンドの特徴：

- 1.安定したインカム（利子等収益）の確保と中長期的な信託財産の成長を目指します。
- 2.FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）をベンチマークとし、これを上回る運用成績を目指します。
- 3.マザーファンドを通じて日本を除く先進国の国債を中心に分散投資を行います。
- 4.円に対する為替ヘッジは原則として行いません。

《基準価額》

	2026/7/31	2026/8/31
基準価額	26,543円	26,495円

基準価額は信託報酬（年率0.748%（税込）、0.68%（税抜））控除後のものです。（以下同じ。）

《ポートフォリオ特性》

*マザーファンド・ベース

	当投資信託	ベンチマーク	対比
平均残存期間(年)	7.98	8.85	-0.88
修正デュレーション(年)	6.54	6.14	0.40

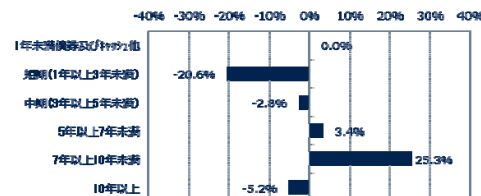
《組入通貨別配分比率》

*マザーファンド・ベース

通貨名	当投資信託		ベンチマーク	対比
	為替ヘッジ前	為替ヘッジ後		
米ドル	35.9%	44.0%	44.1%	▲0.1%
カナダドル	6.9%	2.1%	2.1%	▲0.1%
オーストラリアドル	2.4%	1.3%	1.4%	▲0.1%
ニュージーランドドル	1.1%	0.3%	0.3%	▲0.0%
シンガポールドル	1.4%	▲0.7%	0.4%	▲1.1%
ドル圏小計	47.6%	46.9%	48.3%	▲1.4%
ユーロ	30.4%	28.0%	28.2%	▲0.2%
英ポンド	7.6%	5.2%	5.7%	▲0.5%
デンマーククローネ	0.0%	0.0%	0.2%	▲0.2%
スウェーデンクローナ	0.2%	▲0.2%	0.2%	▲0.4%
スイスフラン	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ノルウェークローネ	0.9%	0.2%	0.2%	0.0%
スウェーデンズロリ	0.0%	0.8%	0.7%	0.0%
欧州圏小計	39.1%	34.0%	35.3%	▲1.3%
イスラエルシェケル	0.0%	0.0%	0.5%	▲0.5%
メキシコペソ	1.3%	1.5%	0.9%	0.6%
韓国ウォン	1.0%	1.0%	1.6%	▲0.5%
人民元	6.1%	12.9%	13.0%	▲0.1%
マレーシアリンギット	4.4%	4.4%	0.5%	3.9%
その他小計	12.8%	19.8%	16.5%	3.4%
円	0.5%	▲0.7%	0.0%	▲0.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	▲0.0%

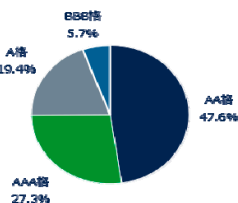
《対ベンチマーク残存年限分布比較》

*マザーファンド・ベース



《格付別分布》

*マザーファンド・ベース



※格付は有力格付機関の格付の内、

最も高い格付を採用した場合の分布となります。

格付は当資料作成基準日現在の格付を使用。

* 2026年6月30日時点より、マザーファンド・ベースの数値の出所をNRI T-STARからBlackRock Aladdinに変更いたしました。

当資料は、ベアリングス・ジャパン株式会社（金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第396号、一般社団法人 資産運用業協会会員）（以下、「当社」）が、ベアリング外国債券ファンドVA2（適格機関投資家専用）の運用状況に関する情報提供を目的に作成した資料で、法令に基づく開示書類あるいは勧誘に関する資料ではありません。当資料は、当社が信頼できる情報源から得た情報等に基づき作成していますが、内容の正確性あるいは完全性を保証するものではありません。

当資料に掲載した運用状況に関するグラフ、数値その他の情報は過去の一時点のものであり、将来の運用成果等を予測あるいは保証するものではありません。

Date Compiled：2018年1月11日、東京 Ref No. I20181Q03

《当投資信託の騰落率》

設定日：2002年9月24日

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
基準価額	-0.18%	-0.47%	-0.07%	9.71%	22.40%	164.95%
ベンチマーク	0.11%	0.02%	0.83%	11.15%	23.97%	188.51%
差	-0.29%	-0.49%	-0.90%	-1.43%	-1.57%	-23.56%

*ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス（除く日本）の前期（土、日等を除く）のドルベースの数値をファンドで採用している為替レート（東京外国為替市場円仲値）で円換算しており、ファンドの基準価額算出方式に合わせています。

《マザーファンドの当期末及び過去4四半期の純資産残高推移》

単位:百万円

	2025/09	2025/12	2026/03	2026/06	2026/08
純資産総額	16,840	18,209	18,360	14,540	14,084

《設定来基準価額（税引前分配金込）とベンチマークの推移》



*ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として指数化して表示しています。

《組入上位10銘柄》

組入銘柄総数：48

*マザーファンド・ベース

	銘柄	通貨	ウェイト (%)	償還日	格付※	比率
1	米国国債	USD	4.250	2035/05/15	AA+/Aa1	6.61%
2	欧州連合	Euro	3.000	2034/12/04	AA+/Aaa	6.56%
3	米国国債	USD	4.125	2036/02/15	AA+/Aa1	5.57%
4	米国国債	USD	1.250	2028/04/30	AA+/Aa1	5.45%
5	英国国債	GBP	0.250	2031/07/31	AA/Aa3	5.03%
6	ドイツ国債	Euro	2.900	2036/02/15	AAA/Aaa	4.60%
7	スペイン国債	Euro	3.550	2033/10/31	A+/A3	4.53%
8	米国国債	USD	2.750	2032/08/15	AA+/Aa1	4.35%
9	イタリア国債	Euro	1.650	2032/03/01	BBB+/Baa2	3.76%
10	米国国債インフレ連動	USD	0.625	2032/07/15	AA+/Aa1	3.26%

※格付はS&P/Moody'sの格付となります。

市場動向

8月の債券市場は、前半は米国がイランへの大規模攻撃を中止し、原油価格が下落したほか、雇用統計が下振れ、米金利は低下しました。後半は米財務省が米長期債買い戻しの増額を発表すると金利が一時低下しましたが、ウォッシュ米連邦制度準備理事会（FRB）議長がインフレ抑制のために今後の利上げの可能性を示唆すると、金利は月初をやや上回るまで上昇しました。欧州では景況感の改善が続き、金利は上昇しました。

通貨市場では、円は日銀の9月利上げ観測が強まった一方、為替介入の効果が薄れたほか、2027年度予算を巡る財政悪化懸念が続き、対米ドルで下落しました。ユーロは対米ドル、対円ともに上昇しました。

運用状況

デューレーションは、各国の金利上昇余地と物価動向を見極めながら、金利リスクを概ね維持し、月末時点で対ベンチマーク差、0.4年長めとしました。債券市場配分では、米国の国債等から、新たに組み入れを開始した韓国、ノルウェー、カナダの国債等に入れ替え、月末時点の主なポジションは、カナダ、マレーシア等をオーバーウェイト、米国、中国等をアンダーウェイトとしました。物価連動債は、米国で組み入れを維持しました。通貨配分では、米ドルをオーバーウェイトからアンダーウェイトに転換する一方、韓国ウォンと英ポンドのアンダーウェイト幅を縮小、メキシコペソをほぼ中立からオーバーウェイトに転換し、月末時点の主なポジションは、マレーシアリンギット、メキシコペソ等をオーバーウェイト、シンガポールドル、米ドル、英ポンド等をアンダーウェイトとしました。

今後の見通し

エネルギーショックの波及による影響は各国で不均一であり、インフレ・成長の格差が拡大、政策対応の差異も鮮明化しているため、国別配分による付加価値創出余地は大きいです。地政学的不確実性は持続・定着するも、市場は先行きを見据え、落ち着きどころを見出していくと予想します。不均一（Uneven）な回復構造に直面する政策当局の反応は各国で異なり、イールドカーブ形成の差異も拡大、機動的かつ選別的なデレシジョン、満期構成配分と分散投資によるリスクテイクとリスク管理を実行し、収益獲得を目指します。

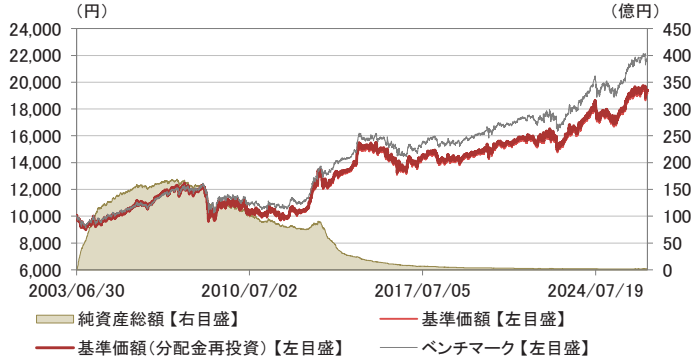
この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

グローバル・ソブリン・オープン VA2

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

基準日：2026年8月31日

■基準価額および純資産総額の推移



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ・ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス(円ベース、日本を含む)です。
- ・ベンチマークは、設定日を10,000として指数化しています。

■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	-0.2%	-0.6%	-0.9%	8.5%	15.6%	93.6%
ベンチマーク	0.7%	-0.1%	0.1%	9.2%	19.3%	117.6%

- ・実際のファンドでは、課税条件によってお客さまごとの騰落率は異なります。
- ・また、換金時の費用・税金等は考慮していません。
- ・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。
- ・分配金実績がある場合は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

■組入上位10銘柄

組入銘柄数: 104銘柄

銘柄	通貨	クーポン	残存年数	比率
1 アメリカ国債	米ドル	3.1250%	18.0年	3.5%
2 スペイン国債	ユーロ	3.5500%	7.2年	3.3%
3 フランス国債	ユーロ	2.0000%	6.2年	3.3%
4 アメリカ国債	米ドル	4.1250%	4.0年	3.1%
5 アメリカ国債	米ドル	4.1250%	27.0年	3.1%
6 アメリカ国債	米ドル	4.1250%	3.2年	3.1%
7 アメリカ国債	米ドル	4.0000%	3.2年	3.1%
8 アメリカ国債	米ドル	4.2500%	9.0年	3.0%
9 アメリカ国債	米ドル	4.0000%	2.9年	2.4%
10 英国国債	英ポンド	3.2500%	6.4年	2.1%

■運用担当者コメント

<投資環境>

債券市場では、主要国の長期金利は上昇しました。米国では、米連邦準備制度理事会(FRB)の利上げ観測の高まりや財政悪化懸念などから、長期金利は上昇しました。ユーロ圏では、欧州中央銀行(ECB)の利上げ観測の高まりや、長引く中東情勢悪化の影響などを背景に、ドイツの長期金利は上昇しました。英国では、主要国の長期金利が上昇したことを受けて、長期金利は上昇しました。

為替市場では、主要国の通貨は円に対してまちまちな動きとなりました。米ドルは、米ドル売り・円買いの為替介入が実施されたことなどから、円に対して下落しました。ユーロは、ドイツの受注関連指標が改善するなど堅調な景気動向を背景に、円に対して上昇しました。英ポンドは、インフレ率が上昇したことや安定した景気動向などを背景に、円に対して上昇しました。

<今後の運用方針>

債券戦略では、中長期債の保有比率を高めに維持し、利息収入の確保を目指します。ユーロ圏では相対的に金利水準の高いフランス国債などを多めに保有します。為替戦略では、防衛費増額により景気回復が期待される欧州で周辺国通貨や、相対的に金利水準の高いメキシコなどの通貨を分散して保有し、中国元の保有を少なめとしています。(運用主担当者: 樋口 達也)

■基準価額および純資産総額

基準価額(1万口当たり)	19,156円
前月末比	-39円
純資産総額	2.00億円

■分配金実績(1万口当たり、税引前)

決算期	決算日	分配金
第23期	2026/02/17	0円
第22期	2025/02/17	0円
第21期	2024/02/19	0円
第20期	2023/02/17	0円
第19期	2022/02/17	0円
第18期	2021/02/17	0円
設定来累計		120円

■資産構成

	比率
債券	97.3%
内 現物	97.3%
内 先物	0.0%
コールローン他	2.7%

■ポートフォリオ特性

	当月末	ベンチマーク
最終利回り	4.3%	3.7%
デュレーション	6.8	6.4
平均残存年数	9.1年	9.2年

■組入通貨

通貨	比率
1 米ドル	38.5%
2 ユーロ	24.4%
3 英ポンド	7.3%
4 日本円	6.6%
その他	23.1%

・為替予約等を含めた実質的な比率です。

■残存期間別組入比率

残存期間	比率
3年未満	14.4%
3～5年	19.5%
5～7年	20.1%
7～10年	22.4%
10年以上	23.6%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。・騰落率は年率換算していません。ベンチマークは基準価額との関連を考慮して、前営業日の値を用いています。・FTSE世界国債インデックス(円ベース、日本を含む)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。・上記のベンチマークは、FTSE世界国債インデックス・データ(出所:Bloomberg)に基づき、設定日(2003年6月30日)の値を10,000として三菱UFJアセットマネジメントが指数化し計算したものです。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

ファンド名：バランスVA50

作成基準日：2026年8月31日

ファンドの特色

- ① 主として、日本株式マザーファンド、日本債券マザーファンド、外国株式マザーファンドおよび外国債券マザーファンドに投資し、内外の株式・公社債への分散投資をすることにより長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。
- ② 基本配分比率は国内株式25%、国内債券25%、外国株式25%、外国債券25%とします。
- ③ 上記の基本配分比率には各資産毎に一定の変動許容幅を設けます。また、市況動向等の変化に応じて当該基本配分比率の見直しを行う場合があります。
- ④ 実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては原則為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、為替予約取引等を活用する場合があります。
- ⑤ 運用の効率化を図るため、株価指数先物取引および債券先物取引等を活用することがあります。このため、株式および債券の組入総額と株価指数先物取引および債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。

基準価額の騰落率

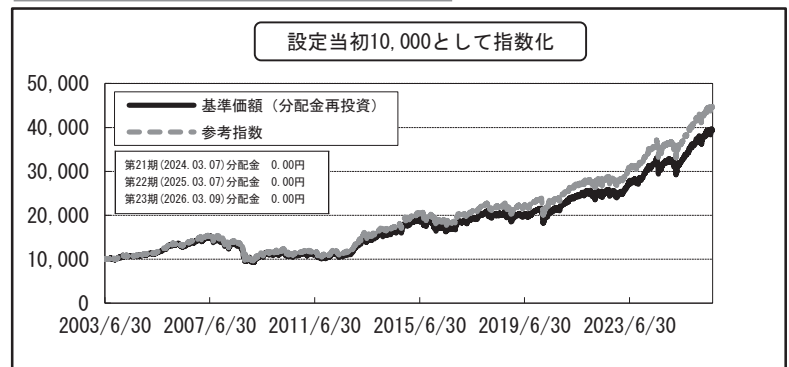
ファンド設定日：2003/06/30

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	+1.49%	+1.69%	+3.85%	+17.02%	+40.98%	+295.43%
参考指数	+1.73%	+1.81%	+4.18%	+17.58%	+42.59%	+347.93%
差	-0.24%	-0.13%	-0.33%	-0.56%	-1.62%	-52.50%

(注) 参考指数は、当ファンドが組入れている各資産(マザーファンド)のベンチマーク収益率に、各基本資産配分比率を乗じて当社にて算出したものです。

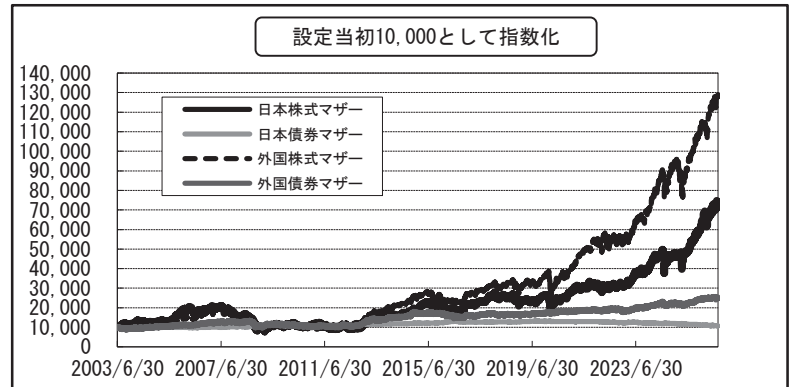
基準価額の推移(当ファンド)

設定来分配金合計 100 円
(10,000口あたり、課税前)



※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

【ご参考】マザーファンドの推移



ファンドの状況

●基準価額等

		前月末比
基準価額	39,262円	+576円
解約価額	39,262円	+576円
純資産総額	3,012百万円	+6百万円

※純資産総額は百万円未満四捨五入

信託財産の構成

	基準日現在	目標資産配分	差異
日本株式マザー	26.4%	25.0%	1.4%
日本債券マザー	23.6%	25.0%	-1.4%
外国株式マザー	26.1%	25.0%	1.1%
外国債券マザー	23.8%	25.0%	-1.2%
コール他	0.1%	0.0%	0.1%
合計	100.0%	100.0%	0.0%

(注) 投資信託純資産総額比

◇ 8月の市場動向

【日本株式】 国内株式市場は上昇しました。月前半は、海外ハイテク株の好決算や米早期利上げ観測の後退を受けて、AI(人工知能)・半導体関連銘柄を中心に上昇しました。月後半は、中東情勢の先行き不透明感が意識され、大きく下落する場面もありましたが、金融株が堅調となり、底堅く推移しました。

【日本債券】 国内債券市場では10年国債利回りが2.940%に上昇(価格は下落)しました。7月末から8月初の日本米協調為替介入や、ベッセント米財務長官の発言などを背景に、9月利上げの織り込みが急速に進みました。また、米・イランの軍事的緊張の再燃による原油高や円安を背景にした輸入インフレへの警戒感などが金利上昇要因になりました。

【外国株式】 米国株式市場は上昇しました。軟調な米経済指標を受けて早期利上げ観測が後退し上昇したものの、中旬以降は中東情勢を巡る懸念から売りが優勢となりました。欧州株式市場は上昇しました。月前半は好調な企業業績や中東情勢の改善期待などから上昇しました。その後、ECB(欧州中央銀行)の利上げ観測が高まり下落したものの、月間では上昇しました。

【外国債券】 米国10年国債利回りはほぼ横ばいでした。軟調な米経済指標が金利低下要因となったものの、月末のウォッシュFED(米連邦準備理事会)議長によるインフレ懸念を示す発言を受けた追加利上げ観測や、米・イランの軍事的緊張の再燃から、利回りは上昇(価格は下落)しました。ドイツ10年国債利回りは上昇しました。ECB(欧州中央銀行)による早期利上げに対する警戒感が引き続き意識され、金利上昇要因になりました。

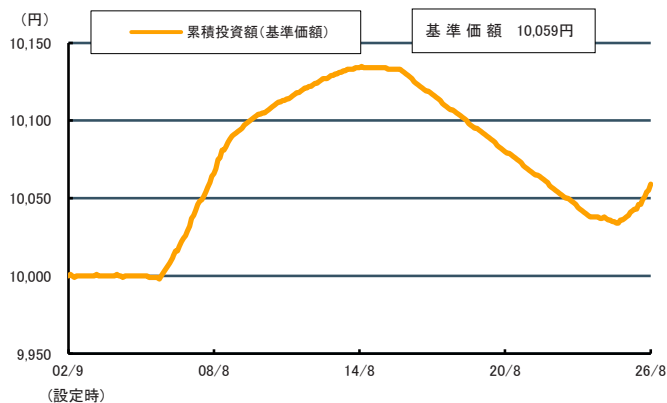
設定・運用は、三井住友トラスト・アセットマネジメント (<https://www.smtam.jp/>)

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

- ◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

商品概要	
形態	追加型投信／国内／債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

設定来の運用実績 (2026年8月31日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
 ※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。
 ※基準価額は運用管理費用控除後のものです。
 ※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

純資産総額	56.0 億円	(2026年8月31日現在)
-------	---------	----------------

累積リターン (2026年8月31日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.04%	0.08%	0.13%	0.21%	0.15%	0.59%

※ 累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金(1万口当たり／税込)

第 20期(2021.11.30)	0円
第 21期(2022.11.30)	0円
第 22期(2023.11.30)	0円
第 23期(2024.12.02)	0円
第 24期(2025.12.01)	0円

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2026年7月31日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	1395国庫短期証券 2026/10/19	債券	A	41.0%
2	1385国庫短期証券 2026/09/07	債券	A	30.0%
3	1381国庫短期証券 2026/08/17	債券	A	21.8%
4	1389国庫短期証券 2026/09/24	債券	A	5.4%
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-

(組入銘柄数：4)

上位10銘柄合計 98.2%
(対純資産総額比率)

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

(2026年7月31日現在)

資産別組入状況

債券	98.2%
CP	-
CD	-
現金・その他	1.8%

組入資産格付内訳

長期債券 格付	AAA/Aaa	-
	AA/Aa	-
	A	98.2%
短期債券 格付	A-1/P-1	-
	A-2/P-2	-
現金・その他		1.8%

平均残存日数	51.80日
平均残存年数	0.14年

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。(「プラス/マイナス」の符号は省略しています。)なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

(対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、ファンドの推奨(有価証券の勧誘)を目的としたものではありません。本資料に記載の内容は将来の運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、厳密な意味での正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。上記情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

募集代理店

引受保険会社

三井住友海上プライマリー生命保険株式会社

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル

資料請求・お問い合わせ

フリーダイヤル 0120-125-104

<https://www.ms-primary.com>